

令和 5 年度評価・意見一覧表 (地方独立行政法人岩手県工業技術センター令和 5 事業年度評価)

II 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項				各項目の平均点により評価
				県評価 A
項目	自己評価	委員評価	委員コメント	県評価
震災復興への支援	A	A (3.8)	<ul style="list-style-type: none"> 震災後 12 年たち、新しい「支援局面」にいたる中で企業訪問を積極的にすすめ、個々の企業ニーズを調査しながら、生産現場での技術支援に力を入れていることを評価する。 継続支援だけでなく、新規の支援も増やしており、状況に差がある中でも積極的に取り組まれていて素晴らしいと思う。 東日本震災津波から 12 年が経過した現在も、この事業への取り組みが継続しているということは、支援が計画通りに進んでいないという印象を持った。 支援内容が年々ステップアップしているのであれば、現時点の計画がどの段階にあるか、今後の課題なども含めて明示する必要がある。現時点での「新規の支援企業」があることについて、「2. 企業活動への技術支援」(P9) と分けて対応する必要性があることについて、説明に不明な点が多かったため、B 評価とした。 	A
企業活動への支援	A	A (4.2)	<ul style="list-style-type: none"> 依頼試験等件数や設備機器貸出件数の増加率は 208% 増ときわめて顕著であり、このことを評価したい。 年度計画において、依頼試験・設備器機貸し出し件数が 7500 件/年であるのに対し、計画の進行状況では、依頼試験数、設備器機貸出件数の合計が 16000 件弱で、計画の 2 倍以上になっている。これは想定外のことなのか、それとも、当初計画の見積が、正しくおこなわれていないのか、説明が不足している。 	A

項 目	自己 評価	委員 評価	委員コメント	県評価
技術相談	A	A (4.3)	<ul style="list-style-type: none"> ・技術相談解決度について、未解決に対応不能が一定数見られた。この理由がセンターの人材・設備では対応不能な内容だったのか、相談内容的な問題だったのか、他機関紹介等、別の対応が出来なかったのか等、少々気になった。全体に占める割合は軽微と考えているが、センターの役割として解決を目指す必要があった相談だったのか等今後の課題としてご検討頂けると、より顧客満足度向上につながるのではないかと思います。 ・会議での説明を受け、AA と評価する。 ・来所や電話、メールへの対応といった受け身的な対応だけでなく、積極的な企業訪問なども進められていて、素晴らしいと思う。 ・目標を大きく上回っており、特筆すべき成果が上がっている。利用企業の満足度 98%は非常に高く、評価できる。 ・技術相談解決度において、未解決が 72 件あることについて、割合は低いものの、絶対数で考えると、決して楽観視できない値である。未解決な技術相談への対応策（所内情報共有、他の手法による検討、他機関への依頼等）は検討されているか、不明である。 	A
依頼試験等	A	A (4.5)	<ul style="list-style-type: none"> ・会議での説明を受け、AA と評価する。 ・目標を大きく上回っており、特筆すべき成果が上がっている。 ・依頼試験が順調に行われている。職員の対応能力向上のための最新技術に関わるセミナー派遣、顧客企業へのセミナー開催など、技術を提供する側、依頼する側の相互で、技術の向上に努めていることは評価できる。 	AA
設備機器貸出	A	A (4.3)	<ul style="list-style-type: none"> ・会議での説明を受け、AA と評価する。 ・設備器機貸出が順調に行われている。装置を提供する側、貸し出す側の相互での技術支援を実現していることは評価できる。 	A

項目	自己評価	委員評価	委員コメント	県評価
戦略的な研究開発	A	A (3.8)	<ul style="list-style-type: none"> ・成果報告件数が増加しており、戦略的な研究開発が地域産業に還元されていることを確認できる。 ・紙上発表が積極的に行われていることは評価できる。 ・岩手県工業技術センターで求められる戦略的な研究開発について、中間計画において具体的に提示し、それ期間内に達成するために R5 年度ではどういふことを実施したか記載する必要がある。計画の進行状況では、年度計画がどの程度実施されたかを示すものであり、「目標達成」という記載に対しては、評価し難い。また、本来、研究開発は短時間で目標達成するようなものではないと考える。そもそもの課題設定が、戦略的な研究開発と言えるのか不明な点が多い。外部資金が採択されること＝戦略的な研究開発のスタートであり、戦略的な研究開発の目標達成ではない。計画の進行状況が適切に説明されていなかったため、B 評価とした。 	A
県政課題等解決のための重点研究	A	A (3.8)	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくり DX システム導入支援強化を進めていることを評価する。その成果を見いだすには、まだ早すぎるかも知れないが、令和 5 年度の取り組みが今後のさらなる成果につながる「基盤的支援」となることを期待する。 ・県内中小企業は、DX という言葉は浸透しつつあるも、未だ自社の DX をどの様に実施すれば良いか、何から手を付ければ良いか、且つ金銭的な部分でも未知の領域である。DX ハッカソンを実施しながら、多種多様な業界の DX を考えるきっかけ作りや、中小企業との連携も単年度ではなく、継続的事業として実施することも視野に入れても良い。 ・「岩手県」の施設ということで、重要な部分かと思う。新設された DX 部門が積極的に動いているようで、素晴らしい。今後、DX 支援する前はこうだったが、支援した結果こうなった、といった報告を頂ければありがたい。 ・戦略の策定と見直しはどのような組織とプロセスで進めているのか説明をいただくと良い。 ・それぞれの計画において、課題解決のために当該センターはどのような取り組みをおこない、どのような点で貢献できたのか、計画の進行状況が適切に説明されていなかったため、B 評価とした。 	A

項目	自己評価	委員評価	委員コメント	県評価
企業ニーズに対応した共同研究及び受託研究	A	A (3.8)	<ul style="list-style-type: none"> 「可能性調査研究」が次年度以降の各種事業成果に繋がることを期待する。なお、新規共同研究企業数の進捗状況において、令和5年度は目標通りの実績となったが、次年度以降、中期目標期間全体で設定した目標数の達成に向け、若干の実績数増加が必要と考える。 満足度、目標達成ということだけの記載からは、計画の進行状況が適切かどうか、本文からは判断できなかったため、B評価とした。 	A
技術シーズ創生のための研究	A	A (4.0)	<ul style="list-style-type: none"> 年度計画に添って、計画促進をおこなっており、知的財産創出も順調におこなわれていることが理解できた。「成果展開研究テーマ」と「発展研究テーマ」の違いがわからなかった。 	A
研究成果の事業化支援	A	A (3.8)	<ul style="list-style-type: none"> どのようなケースを技術移転件数としているのか説明していただけると良い。 目標達成ということだけの記載からは、計画の進行状況が適切かどうか、本文からは判断できなかったため、B評価とした。移転する技術と移転先の企業とのマッチングはどのようにおこなわれたのか、説明に不明な点が多かったため、B評価とした。 	A
知的財産の創造・保護・活用	A	A (4.2)	<ul style="list-style-type: none"> 目標数値以上の件数を達成していることを確認した。この数値的には目立つものではありませんが、知的財産創出の取り組みにあって、着実な成果を挙げていることを評価する。 会議での説明を受け、AAと評価する。 知的財産の出願数は目標に達しているが、保有特許の利用実績についても説明いただけると良い。 計画の進行状況には、年度計画で示されている「知財総合支援窓口の運営」、「知的財産の戦略的な活用促進」、「ノウハウの管理強化」、「知財スキルの向上」に取り組んだことについて、これらの取り組みが知的財産創出の中でどのように関わり、どのような貢献ができたかを説明するべきである。本文からは判断できなかった。 	A

項目	自己評価	委員評価	委員コメント	県評価
ものづくり産業及び地場産業への支援	A	A (3.8)	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくり DX システム導入支援強化を進めていることを評価する。まだ成果を見いだすには早すぎるかも知れないが、今後の成果につながるような基盤的支援となることを期待する。 ・共同研究件数について、令和5年度も含め、毎年、目標件数を超えた実績を達成していることを評価する。 ・成果報告から共同研究へつながるなど、とても理想的かと思う。引き続き尽力いただきたい。 ・ここでは、ものづくり産業及び地場産業に対しておこなった「様々な支援」が、評価されるべきことであるが、この点について説明がない。「目標達成」だけでは説明に不明な点が多かったため、B評価とした。 	A
ものづくり産業への支援	A	A (4.2)	<ul style="list-style-type: none"> ・岩手県の地場産業ともいえる「自動車製造」にあつて、令和5年度は、さまざまに厳しい状況・課題があつた。工業技術センターのさらなるバックアップを期待する。また、今後将来、しかも急速な転換が予想される電気自動車製造への研究協力支援を積極的に進めることも、ものづくり産業への支援として必要かも知れません。 ・DX支援に力を入れて尽力頂いていることがわかる。再掲になりますが、支援の成果として、支援前後の違いや、支援した結果、ここを課題としている企業が多い、といった分析の部分を整理頂けるとありがたい。 ・計画の進行状況について、具体的な支援内容で説明されている。何がどのように達成されたか理解できる。 	A
地場産業への支援	A	A (4.2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ややもすれば、「時代の先端的技術支援」に着目されがちだが、地場産業への継続的で着実な技術支援が展開されていることを評価する。こうした技術支援があつてこそ、地域産業も発展し、やがてそれが岩手県におけるものづくり産業のかけがえのない特色となる。 ・「まんずデザイン相談の日」など素晴らしいと思う。 ・計画の進行状況について、具体的な支援内容で説明されている。何がどのように達成されたか理解できる。 	A

項目	自己評価	委員評価	委員コメント	県評価
産業人材の育成	A	A (3.8)	<ul style="list-style-type: none"> 次世代のものづくりを担う技術者や地域産業分野の後継者育成において、どのような取り組みをおこなったのか明記されていない。「目標達成」だけでは説明に不明な点が多かったため、B評価とした。 	A
企業人材の技術高度化支援	A	A (4.0)	<ul style="list-style-type: none"> 技術人材の受け入れや、講習会、研究会の開催を実現したことは業績に値する。企業人材の技術高度化支援を供給する側は、同時に、支援内容のアップデートが欠かせない。その点に関して今後とどのように対応してゆくか、検討がなされているか明記されていない。 	A
次代を担う産業人材の育成	A	A (4.2)	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ受け入れについて、全12名のうち中学生が5名であったことは、将来の人材養成の視点からいえば楽しみなことだが、その他、高校以上の受け入れが7名にとどまっていることは、工業技術センターの「実力」から言えば、少し物足りない気がする。 次世代を担う産業人材の育成に対して、セミナー講習会、ワークショップ、インターンシップ受け入れなど多種多様な取り組みがなされている。 	A
連携・協働の推進	A	A (3.8)	<ul style="list-style-type: none"> 「交流」とは、抽象的な説明であり、内容がよくわからず、評価が難しいです。具体的にはどのようなことがおこなわれたのでしょうか。各機関との交流によって、どのようなことが達成したのか。説明に不明な点が多かったため、B評価とした。 「計画の進行状況」を見ると、外部資金新規採択件数が出ています。「3 戦略的な研究開発」と重複しているようにもとらえられる。 	A
情報発信の推進	A	A (4.2)	<ul style="list-style-type: none"> YouTubeも拝見した。今後イベントなどで子供向けの技術動画等があると、継続的に増えるかもしれないと考える。 経営的な視点でいくと、設備紹介や試験の内容などの動画の方が利益に直結するかと思うので、難しいところかと思いますが、継続して頂きたいです。 ウェブページのアクセスが順調に伸びていることはすばらしい。 広報活動は年度計画の一定な進行状況が見られる。 	A

Ⅲ 業務運営の改善及び効率化に関する事項			各項目の平均点により評価	
			県評価 A	
項目	自己評価	委員評価	委員コメント	県評価
組織運営の改善	A	A (3.8)	<ul style="list-style-type: none"> ・DX 推進特命部の設置について、大変特色ある有意義な取り組みかと拝察しますが、ヒアリングでの説明がわかりにくいモノでした。より積極的なアピールが必要かと考える（それに相応する事業を展開したならば・・・であるが）。 ・DX 推進特命部の今後の成果創出に期待したい。 ・内部統制推進委員会でのコンプライアンス訓示で組織運営の改善が図れるのか。コンプライアンス体制を担保するためには、何より客観性を確保できる組織運営が必要がある。例えば、e-ラーニングなどを利用し、組織運営に携わるものが、定期的にコンプライアンスに対する認識のチェックすることが重要である。これらについて、同様な対応がなされていないのであれば、早急な対応が必要と考える。 	A
効果的・効率的な事務処理	A	A (4.2)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、真摯な改善の取り組みが進んでいると評価する。工業技術センターの特色ある取り組みを萎縮させぬよう、持続可能な「効率バランス」に配慮して取り組みを進めてほしい。必要なところは「惜しまずに！」 ・総務部の超過勤務が増加しているため、負担軽減が求められる。 ・効果的・効率的な事務処理をおこなうための工夫（電子化・ペーパーレス化等、アドバイザー等のサポート導入等）がおこなわれていることが確認できた。 	A
職員の意欲向上と能力開発	A	A (3.8)	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して職員満足度アンケートを実施していることも良い。職員全員が「そう思う」に評価することを目的にするのではなく、地域ニーズに合った職員の意識向上や技術向上などアンケートを基に能力向上を図ってほしい。 ・職員満足度アンケートで、20%を超える職員は「満足」ではないと答えているが、本件について、解決に向けた対応については明記されていない。理事長表彰は職員全体の極一部である。職員全体の意欲向上をはかるための対策はされているか明記されていない。 	A

<p>環境・安全衛生マネジメント及び職場環境の充実</p>	<p>A</p>	<p>A (3.8)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数年来、安全確保を維持できていることをなにより評価する。 ・労働災害・交通事故ともに長期に渡り発生していないことは素晴らしい。 ・政府は2020年代に女性上位職を30%程度になることを目指している。これについて、どの程度達成されているか。達成されていない場合、計画、計画の進行状況に、具体的対応策を示す必要がある。実績報告書では、女性上位職数の過去5年間での推移や昨年度比、増やすための対応策など具体数が不明である。男女問わず、育児休暇、介護休暇等が積極的に取れる環境であるか、具体的数値目標の設定が不明である。（政府は男性の育休取得率の目標を2025年までに50%、2030年までには85%に引き上げるとしている。） 	<p>A</p>
<p>コンプライアンスの徹底及び社会貢献活動への取組</p>	<p>A</p>	<p>A (3.8)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス対策について、組織運営の改善（P30-31）と同様に、コンプライアンス体制を担保するためには、客観性を確保する必要がある。例えば、e-ラーニングによるテストを利用する、外部専門家から研修を受けるなど、定期的な意識チェックが重要である。これらについて、同様な対応がなされていないのであれば、早急な対応が必要と考える。 	<p>A</p>

IV 財務内容の改善に関する事項			各項目の平均点により評価	
			県評価 A	
項目	自己評価	委員評価	委員コメント	県評価
外部研究資金の活用と自己収入の確保	A	A (3.8)	<ul style="list-style-type: none"> ・数年前は、一番の課題とされていた外部資金調達部門で、毎年のように目標を達成されていて、課題改善のために尽力されていること、大変素晴らしいと思う。これからも継続を期待する。 ・自己収入について、他県の大型施設による使用料収入の減少がある中でも他の部分でカバーされている点は素晴らしいと思うが、突発的な特定の大量な案件もあったとのことで、次年度以降、不安があるように感じる。 ・令和5年度のように、他の部分でカバーしていく方針で良いのか、長期的な視点が必要かと思う。 ・中期計画と年度計画がほぼ同じである。中期計画のうち、R5年度は主に何処に力を入れるのかがわかりにくい。外部資金の修得、自己収入の確保について、金額については明示されているが、数値目標や達成度についての評価は不明。説明に不明な点が多かったため、B評価とした。 	A
経費の抑制	A	A (4.2)	<ul style="list-style-type: none"> ・経費の抑制は重要な目標ではあるが、諸物価高騰、円安の状況のなかで、「抑制」ばかりに拘泥せず、センター本来の業務に支障がないよう祈念する。 ・エネルギー抑制は、地球にもセンターにも良いことだらけなので継続してほしい。 ・値上がりの社会情勢の中で、経費削減に成功され素晴らしいと思う。改善点についても、労働環境や設備維持に無理のない部分かと思われますので、継続して尽力頂ければと思う。 ・光熱水費の縮減や省エネ対策（特に電気料金の経費抑制）につとめ、金額面での大きな成果が見られる。 	A

VIII その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項			各項目の平均点により評価	
			県評価 A	
項目	自己評価	委員評価	委員コメント	県評価
試験研究機器の整備・活用	A	A (4.0)	<ul style="list-style-type: none"> ・中期目標の達成、および技術ロードマップの促進のために、主要試験研究器機について、補助金を活用した導入整備、維持管理・修理の実施がおこなわれている。次期新規導入器機については、装置導入の重要性や必要性、優先順位、購入装置の選定など、十分な議論、調整が必要であるが、これらの点について、どのように対応されているのか不明である。 	A
施設・設備の計画的な修繕・整備	A	A (4.2)	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化が進む中、緊急修繕にならぬよう、修繕計画を作成し、年度ごとに見直し、修繕費の突発的な支出を抑えることも今後必要と思う。 ・試験研究機器の整備については、老朽化による補修や新規なものへの入れ替えを積極的に進めるべきと考える。予算は補助金の獲得如何に係るのかも知れないが、県の産業振興に資する将来投資だとお考えいただき、関係各位の知恵出しをお願いしたい。 ・施設の老朽化に対応するために、大・中・小規模の修繕や空調更新、法定資格取得者の育成・確保など、計画的に進められている様子がうかがえる。 	A
人事に関する計画	A	A (4.0)	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の職員年齢構成の想定上研究職員採用は1名で十分か説明があると良い。 ・専門性の高い人材確保に向けた取り組みをすすめている。社会人大学院生の修学は、高度な科学技術を扱う本センターにとって必要不可欠であり、職員のモチベーション向上にもつながることから、継続的な取り組みをすすめていただきたい。 	A
<p><総合評価コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4期中期目標期間3年度目にあたる令和5年度は、センターの「基本方針」として定められた3項目を軸として、各種業務に取り組み、自己評価がすべてAとなる着実な成果を挙げたことを評価する。コビッド19の拡大感染も収まってきたなかで、中期目標に基づきながら、センターが果たすべき本来の事業を展開した「事業成熟期」であったと考える。この令和5事業年度の取り組みとその成果が、中期目標期間第4期事業全体の目標達成と、第5期に向かう「基盤」を形成した事業年度となっていることを期待する。また、基本的なことではあるが、業務の効率化、安全確保、コンプライアンスの維持など、「できてあたりまえ」で評価されにくい事業が、ここ数年来、安定して継続的に実現できていることを、あらためて評価する。 				

- ・評価は素晴らしい結果であるが、自己評価に甘んじず、更にステップアップした目標を策定しPDCA サイクルを回し、より一層県民や、岩手県内の企業の駆け込み寺的な存在であるよう、職員皆さんの取り組みを期待する。
- ・今年度は全項目において A 以上の自己評価という点につきましてご説明頂いた内容を踏まえ同意する。
- ・昨年意見としてありましたアンケート結果の分析もしっかりなされ顧客満足度の向上に対応されている点についても良かったと思う。
- ・外部資金や自己収入の確保なども尽力され、成果が出ていると思いますが、費用削減とともに収益の部分も予算より少なかったでしょうか、そのあたりをどう判断すべきかわからないのですが、全体的に数値目標を達成され、その内容も、課題解決に真摯に取り組まれていると思う。
- ・報告書からは直接わからないような、様々な努力がなされているようにも感じていますので、引き続き尽力頂ければと思う。
- ・すべての項目において、目標を上回っており、高く評価できる。その中でも特に、依頼試験・設備機器貸出件数が目標の 2 倍以上であり、特筆すべき成果を挙げている。サービスを提供した利用者に対する満足度の把握も十分にされており、芳しくない回答をしたすべてのユーザーにフォローアップを実施している。大変丁寧な取り組みをしている。理事長対象表彰も職員のモチベーションアップにつながるよい工夫である。
- ・今回 29 項目の評価指標に対して評価案を作成したが、29 個に渡る指標は過剰と感じる。将来は大括り化を検討してはどうか。
- ・項目によっては、「計画の進捗状況」についての記述の仕方に温度差があるように感じた。満足度、目標達成のみの記載になっているものもあり、そのような項目については、内容が充分理解ができず、評価がやりにくかった。この場合、やむを得ず、評価を 1 段階下げている。本件について「特に評価する点又は改善すべき点」のところでも、そのようにコメントしている。